2 都市構造

(1) 基本的な考え方

本市の現在の都市構造は、山から海まで続く地形の上に、鉄道駅周辺や幹線道路沿道を中心とする交通利便性の高い地区に都市の拠点的な機能が整備されており、これらを鉄道や道路でネットワークする形で形成されています。これまで築いてきた都市構造を継承するとともに、市全体の更なる発展や市民生活の質の向上を図るため、目指す都市構造を次のように考えます。

- ◎基本的な都市構造は、主要な都市機能や生活機能を担う「都市拠点」、周辺都市との広域 的な交流や市内の円滑な移動を支える「都市軸」、海・山の自然を活かし・共生する「自 然風景ゾーン」により構成します。
- ◎これらを補完する「生活・交流拠点」を適切に配置するとともに、緑豊かな街路樹や河 川等によって都市全体を結び付けます。

(2) 都市構造

都市拠点

■ 中心核

商業・業務機能が集積し、阪神間及び本市の主要な広域交流の玄関口である JR 芦屋駅周辺地区を「中心核」に位置付けます。

市街地再開発事業による土地の高度利用や交通 結節機能の強化,既存の都市機能の維持・充実, 商業地としてのにぎわいの創出等により,本市の 顔にふさわしい魅力的な都市空間の形成を図りま す。



■ 地域核

阪神芦屋駅周辺,阪神打出駅周辺,阪急芦屋川駅周辺,シーサイドセンター周辺(芦屋浜地域),センター地区(南芦屋浜地域),岩園橋周辺(山手地域)を「地域核」に位置付けます。

既存の交通,商業,医療,福祉機能等の集積を 活かし,地域特性に応じた市民生活の拠点として の機能の維持や誘導を図ります。



都市軸

■ 広域交流軸

本市を東西に横断する国道 2 号及び国道 43 号, 阪神高速 3 号神戸線及び阪神高速 5 号湾岸線など の広域幹線道路や JR 東海道本線などの鉄道を, 阪 神間はもとより全国をネットワークする「広域交 流軸」に位置付けます。

交流軸としての役割を尊重するとともに, 住環境への配慮について関係機関と連携を図ります。



■ 中央都市軸

市街地の中央を南北に通り、「中心核」と「緑の 拠点」を結ぶ芦屋中央線を「中央都市軸」に位置 付けます。

街路樹や水辺が連続する潤いのある道路を適切 に維持管理するとともに、良好な沿道景観を保全 しながら、快適な道路空間の形成を図ります。



■ 地域環状軸

市街地の外郭を構成する芦屋山麓線,稲荷山線, 打出浜線,芦屋川左岸線等の主要な幹線道路を「地 域環状軸」に位置付けます。

市内の円滑な交通処理や地域間交流を担うとと もに,災害時における防災機能を発揮するため, ネットワーク化を図ります。



■ 環境軸

北部の山地から山麓,平坦な市街地,浜の埋立地,海へとなだらかに続く地形は,本市の都市環境の大きな特徴です。また,芦屋川や宮川などの河川,街路樹のある道路空間がネットワークで繋がり,連続的な都市空間を形成しています。

本市全体を一つの「環境軸」に位置付け、水や 緑、景観、眺望、風の流れにいたるまで、あらゆる 環境が繋がる都市づくりを進めます。



自然風景ゾーン

■ 海浜ゾーン

芦屋川河口や芦屋キャナルパーク,海浜公園, 南芦屋浜地域のマリーナ,潮芦屋ビーチ等は,都 市部に近接する貴重な海辺環境として「海浜ゾー ン」に位置付けます。

海洋レクリエーション機能の活用や周辺住宅地 と調和した都市景観を形成することにより,海浜 空間の魅力向上を図ります。



■ 自然共生ゾーン

奥池地区は、現況の地形と自然資源を最大限に 尊重するとともに、豊かな自然と調和した住環境 を保全し、人と自然の新たな共生のあり方を提示 する「自然共生ゾーン」に位置付けます。

暮らしの中で自然を感じられる,緑豊かな住環境の保全を図ります。



生活・交流拠点

■ 緑の拠点

芦屋市総合公園や芦屋中央公園などの緑豊かな 憩いの場となる公園を「緑の拠点」に位置付けま す。

市民全体の健康増進やスポーツ振興,レクリエーション活動の場として,また,災害時における 避難場所や災害復旧活動の拠点などとして,公園 機能の維持・充実を図ります。



■ 文化拠点

図書館や美術博物館,谷崎潤一郎記念館等の文 化施設が集積する地区を「文化拠点」に位置付け ます。

本市独自の芸術・文化の継承や振興の中心的な 役割を果たすとともに、隣接する芦屋中央公園と 連携し、本市の文化に親しみ、憩える場としての 環境の形成を目指します。また、施設を適切に管 理していくとともに、今後を見据えた適正な配置 についても検討していきます。



■ 防災・医療拠点

災害時に全市的な防災活動の中心となる市役所 及び消防本部,また,本市の中核病院となる市立 芦屋病院を「防災・医療拠点」に位置付けます。

関係機関と連携して、災害時にも備えた防災・ 医療機能の維持・充実や、緊急車両が円滑にアク セスできる環境の整備を図ります。



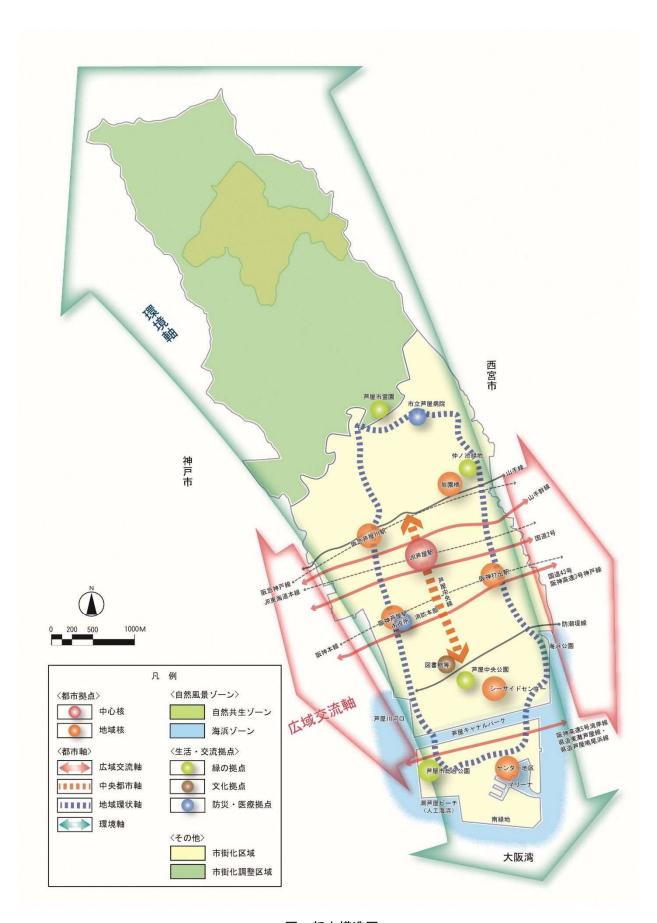


図 都市構造図